



猫になっても、いいんじゃないッ？

宮崎 駿 企画 ● 森田宏幸 第一回監督作品

猫の恩返し

The Cat Returns

原作 終あおい「パロンー猫の男爵」(徳間書店刊) ●脚本 吉田玲子 ●音楽 野見祐二 ●主題歌 つじあやの (スピードスター) ●作画監督 井上 鋭 ●美術監督 田中直哉 ●製作プロデューサー 鈴木敏夫
制作 スタジオジブリ ●徳間書店・スタジオジブリ・日本テレビ・ディズニー・博報堂・三菱商事・東宝 提携作品 ●特別協賛 ハウス食品 ●特別協力 ローソン ●配給 東宝

©2002 猫乃手堂・TGNDHMT

PG-13
CERO
R15
15歳以上

猫の恩返し

The Cat Returns



🐾 2002年、夏。

企画・宮崎駿、新鋭・森田宏幸監督が贈る、
〈ニュージブリ・ワールド〉

数々の興行記録を塗り替え、日本全国で2300万人を超す動員を記録した「千と千尋の神隠し」。また、第52回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞、アジア、欧州、北米などで公開が決まるなどワールドワイドな展開に世界中の関心があつまる中、2002年・夏、今年もスタジオジブリは、日本中が元気になる冒険ファンタジーをお届けします。それが、最新作「猫の恩返し」です。

この作品は、「『千と千尋の神隠し』の次回作を、若い人に挑戦させよう!」と、3年前宮崎駿が、新人監督が演出することを想定して、企画をスタートさせました。宮崎監督は95年に大好評を得た「耳をすませば」の姉妹編をと、原作者・柊あおいに原作を依頼。柊あおいはこの映画のために「耳をすませば」に登場したくパロン・ムタ・地球屋>をモチーフに、「パロンー猫の男爵」(徳間書店刊)を描き下ろしました。

そして、宮崎監督は、ジブリの新鋭・森田宏幸を監督に指名。森田監督は「ホーケキョ」となりの山田くん」、三鷹の森ジブリ美術館上映作品「コロの大きなぼ」の原画を担当し、そのみずみずしい感性を開花させた新鋭の演出家です。宮崎駿&高畑勲両監督に代表されるスタジオジブリに、新しい才能がまた一人誕生しました。

🐾 なぜ、「猫の恩返し」なのか。

スタジオジブリの新たな提言。

良いことをすれば、良いことがある。

「千と千尋の神隠し」では、主人公千尋の「生きる力を取り戻していく」姿が、幅広い世代から熱狂的な支持を受けました。しかし、忘れてはならないのが「カオナシ」の存在です。他者とのコミュニケーションが苦手な、幼児性を持つキャラクター。自分のことしか考えられない、他人の存在はどうでもいいという、カオナシの姿に、ちょっと気まずい思いをしながら自分自身と照らし合わせた方も多いでしょう。困ったことに、大人たち同様、子どもたちの心も出口が見えない状況です。だからこそ、千尋によって、カオナシの閉ざされた心の扉が開きかけた時、多くの人々がホッと胸をなでおろしたのかもしれません。

“生きる”“生きる力を呼び覚ませ”生きることの意味をテーマに作品を世に送り出してきたスタジオジブリが最新作で提案するもの、それは“恩返し”です。古き良き、言い伝え。懐かしい響きをもった言葉です。「良いことをすれば、良いことがある」。他者への思いやりの気持ちを持つことで、自分に思わぬ幸運がおとずれる「鶴の恩返し」「すずめのお宿」など、繰り返し語り継がれた先人たちの教えです。たとえ、特別な能力や魅力がなくても、ひとを思いやる気持ちは誰もが持てます。この映画のヒロインが助けたのは、猫でした。そのおかげでヒロインは冒険の旅ができます。その体験をとおして生きていく勇氣と元気を心に刻むことができるのです。三日、世話になれば一生恩を忘れないといわれる「犬」とは対照的に、「恩知らず」で有名な「猫」たちの「恩返し」が巻き起こす、笑いとユーモアと活劇に満ちあふれた物語なのです。

🐾 猫になっても、いいんじゃないッ？
日がな一日ゴロゴロして。天国かもね。
イヤーなことみんな忘れてさあ。

主人公ハルは、どこにでもいる、不器用な17才の女子高校生。特別な才能を持つわけでもなく、とびきりの美人というわけでもありません。いまいち決断力に欠け、自分ではどうしようもない現実に向き合った時、人の意見に同調することで問題を避ける傾向もあります。その日のハルは、ツイていませんでした。寝坊するわ、学校に遅刻するわ、みんなの前で恥をかいたわ。しかしハルは、トラックに轢かれそうになった猫を見たら、自らの危険を顧みず思わず助けてしまう、そういう女の子です。ところが助けた猫が猫の国の王子様(!)だったばかりに、猫の国に招待されてしまいます。「猫の国? 猫の国もいいかもね。おいしいものいっぱい食べて、お昼寝して、イヤーなことみんな忘れて」そんなことをふと思ってしまうハルの気持ちは、もしかしたら、現代を生きる日本人に通じるものがあるかもしれません。不透明な将来、辛い現実の日々をちょっとだけリセットしてみたい気分が、私たち一人一人の心に蔓延しているかのようです。しかし、猫の国に行ったハルは、猫による大恩返し大会の前に「猫になってもいいかも」と思った瞬間から猫に変身しつつある自分の姿に驚愕するのです。そんな時、猫の男爵・パロンがハルの前に颯爽と登場します。非日常の世界で満足し、本来自分の居場所である“現実”に戻ることをためらうハルに対し、パロンは何度となく語りかけます。「自分の時間を生きるんだ」。とかく現実逃避しがちな私たちの心にパロンの言葉は、どう響くのでしょうか? そして、ハルは無事人間の世界に戻ることができるか? この夏、ハルと一緒に冒険の旅へ出かけませんか?



今度は、僕が主役です。

普通の人々の生活の、ほんの一部分を取り上げて、普通の人々を一瞬だけ主人公にする……これが映画「ギブリーズ」のテーマです。「episode2」では、職人気質のカレー店主とギブリーズ3名の炎の激突「カレー編」、初恋はたった一度だけ……そんな切ない思いを情感たっぷりに描く「初恋編」他4つのショートショートで構成されます。日本映画史上、最も贅沢かつ笑いと切なさに満ちた短編映画の誕生にご期待ください!

* スタジオジブリとは…架空のアニメーション制作会社。ギブリーズはそこで働く普通の人々の総称。



2002年夏 ニャン!ともステキなロードショー